

乱用されている薬物

1. 覚せい剤

覚せい剤は、主に**白色の粉末や無色透明の結晶で、無臭でやや苦み**があります。俗に「**シャブ**」、「**クスリ**」、「**S (エス)**」、「**スピード**」等と呼ばれています。また、通称「**ヤーパー**」と呼ばれる錠剤型の覚せい剤もあります。

覚せい剤には、**神経を興奮させる作用**があり、乱用すると眠気や疲労感がなくなり、頭が冴えたような感じになります。しかし、そのような効果も数時間で切れ、その後は激しい脱力感、疲労感、倦怠感に襲われます。

覚せい剤は、特に**依存性が強く**、乱用を続けると、**覚せい剤精神病**の状態になり、壁のしみが人の顔に見える、誰かが自分を殺しに来るなどといった幻覚や妄想が現れるほか、時には錯乱状態になって、発作的に他人に暴行を加えたり、殺害したりすることがあります。そして、このような**症状は、乱用を止めても長期間にわたって残る危険性があります**。

また、大量の覚せい剤を摂取すると、**急性中毒**により、全身けいれんを起こし、意識を失い、最後には脳出血で死亡することもあります。



錠剤型覚せい剤「ヤーパー」

2. 大麻

大麻には、大麻草の葉を乾燥させた**乾燥大麻**（「マリファナ」、茶色又は草色）、樹脂（やに）や若芽をすりつぶして固めた**大麻樹脂**（「ハシッシュ」、暗緑色の棒状又は板状等）、葉や樹脂から成分を抽出した**液体大麻**（「ハシッシュオイル」、粘着性のある暗緑色又は黒色のタール状の液体）があります。

大麻を乱用すると、一般的には、**気分が快活、陽気になり、よくしゃべる**ようになると言われてはいますが、その一方で、視覚、聴覚、味覚、触覚等の感覚が過敏になり、変調を来したり、現在、過去、未来の観念が混乱して、思考が分裂し、感情が不安定になったりします。このため、興奮状態に陥って、暴力や挑発的な行為を行うことがあり、さらには、幻覚や妄想等に襲われるようになります。また、毎日ゴロゴロして何もやる気のない状態となる「**無動機症候群**」に陥ることもあります。

初めての乱用で大量の大麻を摂取すると、**意識障害を伴う中毒性精神病**の状態になることがあります。

身体的な影響としては、吐き気、めまい、筋力の低下、平衡感覚の障害等が現れるほか、大麻の常用が生殖機能に支障を来し、不妊、流産、胎児の死亡を起こしたり、染色体異常の原因となるとの報告があります。



乾燥大麻

3. MDMA・MDA

MDMA・MDAは、覚せい剤と似た化学構造を有する薬物で、MDMAは、俗に「**エクスタシー**」等と呼ばれ、本来は白色粉末ですが、多くは、様々な着色がされ、文字や絵柄の刻印が入った錠剤の形で密売されています。

MDAは、乱用者の間では「**ラブドラッグ**」等とも呼ばれ、白色粉末ですが、MDMAと同じく錠剤の形で密売されています。

MDMAとMDAの薬理作用は類似しており、**視覚、聴覚を変化させる作用**がありますが、その反面、不安や不眠などに悩まされる場合もあります。

また、強い精神的依存性があり、乱用を続けると、**錯乱状態**に陥ることがあるほか、**腎・肝臓機能障害や記憶障害**等の症状も現われることがあります。

※1 MDMAは、化学名[3,4-メチレンジオキシメタンフェタミン (3,4-Methylenedioxyamphetamine)]の略名です。

※2 MDAは、化学名[3,4-メチレンジオキシアンフェタミン (3,4-Methylenedioxyamphetamine)]の略名です。



MDMA



MDA